

《児童支援専任より ☆当たり前だったことを思い出そう 編☆》

分散登校がおわり、約一か月が過ぎました。不動丸小学校も一斉授業再開です。しかし、心配なことができました。



一斉登校になってから、けがをして保健室にくる子が倍に増えました。特に、病院へ行ってお医者さんに診てもらふ必要にある大きなけがや、首から上のけががほぼ毎日ある状態です。このままの生活の仕方をしていたら、いつだれが大けがをしてもおかしくありません。

今のみなさんの様子を保健室から見ていると、「防げたはずのけが」が多くあります。廊下を走って移動していたり、教室でふざけてしまっていたり、よそ見をしてお友達とぶつかったり…。このようなことをしていないか、心の中で思い出してほしいと思います。

(養護教諭 江川優花 先生 談)



【 ところせましと遊ぶ子どもたち・中休みの校庭の様子 】

分散登校後の子どもの人数は、分散登校時と比べて、単純に2倍です。休み時間の校庭使用については低・高学年で割当表を作成し、安全確保を行っていますが、分散登校中の学校生活に慣れてしまった子どもにとっては、教室も廊下も校庭もせまく感じてしまうようです。加えて、久しぶりに会えた友達と学習したり遊んだりする喜びをからだいばいに表しています。だから、けがも多くなっているのではないのでしょうか。でも、分散登校になる前は、多くの子どもがいても、ぶつからない工夫をしていたはずです。思い出してほしいです。

また、同様のことが放課後の公園や地域での遊びについても言えます。分散登校前のように、安全に遊んでいるでしょうか。みんなと仲良く遊んでいるでしょうか。気持ちよく公園を利用できているでしょうか。周りに迷惑をかけずに遊んでいるでしょうか。思い出してほしいです。